

医療関係者以外の方に向けた臨床試験結果の要約

この試験の名前

YM060（錠）長期投与試験

どうしてこの試験を実施したのか

下痢型過敏性腸症候群は、精神的なストレスなどが原因で胃腸の動きや痛みの感覚に異常が生じ、その結果として、腹痛や腹部の不快感を伴いお通じの回数が増える、便がやわらかくなるなどの症状を引き起こす病気です。ラモセトロン塩酸塩（YM060）は、胃腸の動きや痛みを改善することにより、下痢や腹痛、腹部の不快感などを抑える効果が期待されている薬です。

この試験は、下痢型過敏性腸症候群の患者さんにラモセトロン塩酸塩を長い間飲んでいただき、ラモセトロン塩酸塩の安全性と治療効果を確認することを目的に実施しました。

この試験は、日本の医療機関で2004年10月から2006年3月の間に実施されました。アステラス製薬株式会社は、試験がすべて終了したあとで臨床試験の結果を確認し、その成績をまとめた報告書を作成しました。この臨床試験結果の要約は、アステラス製薬株式会社がまとめた報告書の要約です。

この試験の内容と試験に参加した方

この試験は、試験に参加した患者さんと担当の医師がいずれも、患者さんがラモセトロン塩酸塩をどれだけ飲んでいるかわかっている試験方法で、ラモセトロン塩酸塩の安全性と治療効果を調べました。

この試験では20歳から64歳の男女両方の下痢型過敏性腸症候群の患者さんに参加していただき、ラモセトロン塩酸塩5 μ gが入った錠剤を1日1回、朝食の前に1錠ずつ52週間飲んでいただきました。なお、ラモセトロン塩酸塩を飲み始めてから5週間目以降は、下痢型過敏性腸症候群の症状に応じて1回2.5 μ gに減らすか、10 μ gを増やしても良いことにしました。

この試験には 342 人の患者さんに参加していただきました。この試験に参加した 342 人の患者さんの内訳は以下のとおりです。

患者さんの背景	患者数
年齢	
18 歳未満	0 人
18 歳以上 65 歳未満	342 人
65 歳以上	0 人
性別	
男性	272 人
女性	70 人
地域	
日本	342 人
EU 域内	0 人
その他地域	0 人

この試験の結果

この試験で男女両方の下痢型過敏性腸症候群の患者さんにラモセトロン塩酸塩を 52 週間飲んでいただいた結果、ラモセトロン塩酸塩は下痢型過敏性腸症候群の治療に効果があることが分かりました。また、この試験ではラモセトロン塩酸塩の安全性に大きな問題はみられませんでした。

この試験に参加した方にみられた副作用の内容

ある薬が患者さんに好ましくない作用を持っていないか調べるためには、たくさんの臨床試験を行う必要があります。新しい薬を創るときには、臨床試験で患者さんにみられた好ましくない症状を全て調べます。臨床試験で患者さんにみられた好ましくない症状は「有害事象」と呼ばれています。有害事象は、薬を使ったことが原因で発生することも、薬とは関係がない別の原因で発生することもあります。試験を行った医師が、使用した薬が原因で発生したと考えた有害事象は「副作用」と呼ばれます。

下の表は、この臨床試験に参加した患者さんに比較的多くみられた副作用を示しており、ラモセトロン塩酸塩を飲んだ患者さんの 10 人以上にみられた副作用です。

副作用	副作用がみられた患者さんの人数
	ラモセトロンを飲んだ患者さん (342 人中)
固形便	28 人
便秘	28 人
腹部膨満	23 人

患者さんにみられた副作用が、患者さんの生命をおびやかす場合、あとに障害を残す場合または入院して治療する必要がある場合は、「重篤な副作用」と呼びます。

この試験では 1 人の患者さんに重篤な副作用がみられました。また、1 人の患者さんが試験中に死亡されましたが、担当の医師はラモセトロン塩酸塩と死亡との関連性はないと判断しました。

この試験についてもっと詳しく知りたい方は

この臨床試験の結果の要約は、次のインターネットサイトから入手することができます。

<<http://www.astellasclinicalstudyresults.com>>

この薬がどのくらい治療効果を持っているか、どのような副作用がみられることがあるかを調べるため、多くの臨床試験が行われています。この薬について知りたいことがありましたら、あなたの担当医師と相談してください。

この試験を実施した会社の連絡先

アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2丁目5番1号